



文京三中だより



教育目標 自ら考え、進んで学ぶ人 思いやりのある、心豊かな人 ねばり強く、心身ともにたくましい人

文京区立第三中学校 〒112-0003 東京都文京区春日1-9-31

電話 03-3814-2554 FAX 03-5689-4556 HP <http://www.bunkyo-tyky.ed.jp/daisan-jh/>

結果をほめる指導者（親）、過程をほめる指導者（親）

校長 阿部 昭彦

通知表を配布する時期になると、ある講演会で聞いた話を思い出します。

マラソンランナーを育てる指導者には、大きく2つのタイプがあると書かれていました。ひとつはほめるタイプ、もうひとつは、しかるタイプだそうです。ほめるタイプは選手に自信を与えて伸ばし、しかるタイプは反骨心をバネにして伸ばすのだそうです。現在の指導者は、ほめて伸ばすタイプの指導者が多いそうです。高橋尚子選手を育てた小出監督もほめるタイプだそうです。

さて、ほめるということと、ほめ方について考えてみたいと思います。「ほめる」ことは、子どもに成就感や満足感を与え、自己有用感を育てるものです。また、ほめられることによって、新たな目標に向かつてがんばろうとする「意欲」を伸ばすものです。ですから、ほめるということは子どもを伸ばす上でとても大切なことです。

しかし、日本人は概してわが子が頑張っているでも他人の前でほめたり、誇りにしたりすることをあまりしません。外国では、人前で我が子をほめることはよくあることだそうです。人前でほめられた子どもは、自分が親から認められたという自負心や、やってきたことに対する自信が生まれ、誇りを持つものです。私たち日本人は人前でなくとも、祖父母の前で、親戚の前で、兄弟の前で、もっともっと子どもの良さをほめたいものです。

ほめ方も大切です。

結果をほめることはよくあります。これは「よい」結果をほめるということです。子どもがよい結果を出したとき、それをほめることは、子どもにとって満足感や成就感を与えます。ですから、結果をほめることは大切です。しかし、結果だけをほめることを続けると、子どもは結果さえよければいいのだという考えに陥りがちです。結果をほめること以上に大切なことは、取り組んだ過程をほめることです。結果はよい場合だけではなくありません。残念な結果になってしまうこともあります。概して人生ではよい結果だけではない場合のほうが多いのではないのでしょうか。いい結果がでなかったらほめられないというのでは子どもはかわいそうです。いい結果は出なかったけど、その過程で血の出るような努力をした子どももいるわけです。努力していた過程をほめることは、子どもに努力すること、一生懸命取り組むことの大切さを教えます。

結果をほめることは、結果だけをみていればいいのですから、ある意味では簡単です。しかし、過程をほめることは、我が子の取り組みの全てに注意を払い、ここはこの子なりに頑張っているという場面を見つけなくてはならないので、子どもをよく見つめることになります。子どもにしてみても、自分はいい結果を出せなかったけれど、親は自分がかんばっていた過程、姿を見てくれていて、それを認めてくれたのだということから、親子の信頼関係を深めることになります。

小さなことでも、努力している姿をほめ、自信をもたせることが指導者や親との信頼関係を育むことになる、と私は思います。

- 1学期の間、保護者の皆様には多くのご協力いただき深く感謝申し上げます。
- 2学期も子どもたちのための学校づくりに職員一同で取り組んで参ります。

表 彰

「歯と口の健康づくり 2018」よい歯の児童・生徒作文集掲載生徒

「私の歯磨き」	足立 結子	1年
「音楽家」	土谷 柊太	1年
「自然に良い歯にならない」	金子 愛奈	2年
「良い歯を保つには」	河合 心南	2年
「一本一本が大切な歯」	北川 拓実	2年
「歯の大切さ」	朱宮 康平	2年

「歯と口の健康づくり 2018」よい歯の図画・ポスター表彰生徒

小嶋 莉世	1年	蘇 鈴	2年	伊藤 なお	3年	井上 夏那	3年
-------	----	-----	----	-------	----	-------	----

春季ウイニングカップ

優秀選手賞 吉田 雅輝 大川 有優

口腔衛生に留意し特に歯の健康状態が優秀な生徒

伊藤 なお	井上 慶一	木原 正雄	菅原 悠	中澤 創太	西川 雄大
新田 梨紗	寶積 徹勇	前嶋 昌浩	松村 慧希	矢郷 星空	渡邊 美咲
浅井 賢心	太田 空良	川上 拓馬	鈴木 裕人	土屋 草馬	豊田 直弘
中津 葵乃	濱本 哲也	東 咲良	福田 奈奈	丸山 友紀	南 綾乃
松本正太郎	森田清磨路	青木ほのみ			

『いのちと心の授業』

ケアリングクラウングループ代表、金本麻理子先生をお招きして7月7日（土）に『いのちと心の授業』を行いました。幼稚園教諭を経て在宅訪問看護師として活躍をされましたが、大好きであった祖母の死をきっかけに、うつ病を発症してしまいました。誰にも頼ることのできなかつたときにアメリカ映画の「パッチアダムスストーリー」のモデルとなったDr.パッチに出会い、彼とともに海外の病院や施設などをクラウンという心のケアをする道化師（ピエロ）として訪問されています。先生のお話の中に「いのちの輝かせ方」「いのちと心を元気にする方法」がありました。周りの人と協力し、思いやりを持ち、自分を大切にすることを教えていただきました。



『がん教育』

上記の授業と同日に『がん教育』も行われました。講師の先生は順天堂大学医学部腫瘍内科学教授加藤俊介先生です。先生は腫瘍について多くの研究をされ、腫瘍の怖さ・早期発見・治療（外科治療、放射線治療、内科的治療）についてお話をされました。本校の生徒の多くが身近にがんにかかった人がいる体験をしています。真剣に聞いていました。先生のお話の中に最先端の治療法として「線虫を使った早期発見」がありました。早く実用化されるといいですね。

